

■欧州：EU加盟国の電気料金の赤字、2007年から2012年にかけて増加

欧州委員会（EC）の経済・金融総局は2014年10月3日、EU加盟国における電気料金赤字に関する報告書を発表した。2007年に赤字となっていた国は4カ国であったが、2012年には11カ国へと増加している。具体的にはフランス、ドイツ、ギリシャ、イタリア、ポルトガル、スペイン、ブルガリア、ハンガリー、ラトビア、マルタ、ルーマニア。特にスペインの赤字はEUの中で最も深刻であり、2013年末時点での累積赤字は300億ユーロ（約4兆1,100億円）に達している。この額はGDPの約3%に相当する。また、これらの国にはおおむね、再エネ電源の割合が高い、多くの需要家が規制料金で契約している、規制の体制が不十分であるなどの共通点がみられるという。報告書では、赤字を発生させないためには、規制料金を定める規制機関の独立性が重要であると指摘している。